



特別養護老人ホームみちのく荘

まるめろ通信

【まるめろ通信 / 第 85 号】

発行日 / 2011年 11月 27日
発行 / 青森社会福祉振興団
みちのく荘 0175 (23) 1600
みちのく金谷デイ 0175 (23) 0771
城ヶ沢みちのく荘 0175 (24) 3163
脇野沢いこいの里 0175 (31) 5611
Eメール / marumelo@michinokuso.or.jp

むつ市金谷

ユニット型指定地域密着型介護老人福祉施設(定員 29 名)
小規模特別養護老人ホームです。
1 ユニット毎に 10 部屋の個室、一緒に食事や団らんができるリビングがあり、全部で 3 ユニットで構成。全館冷暖房完備。

地域交流ホール

棟方志功と並び称される版画家、関野準一郎を中心とした青森県の版画家の作品を常設展示。また、市民の作品展示会など、誰もが憩うことができるホールを設けます。館内には甘味喫茶コーナーを設け、くつろぎの場を提供いたします。



イメージ図

むつ市十二林

クリニック(内科、リハビリテーション科)
地域に住む高齢者に優しい医療や回復期・維持期のリハビリテーションが必要な人々を支援したいと考えています。

リハビリテーションセンター(通所リハビリテーション)
専属の理学療法士(P.T)と作業療法士(O.T)による専門のリハビリテーションを行います。専用リフト付きワゴン車による送迎もいたします。

特別養護老人ホームみちのく荘の増設(定員 80 名)
現在、定員 60 名のみちのく荘が 80 名の定員になります。
10 部屋の個室と、共用のリビングなどで構成されているユニットが、2 ユニットの増設となります。全館冷暖房完備。

在宅サービスステーション
訪問看護・訪問介護(ヘルパー)・訪問入浴介護・居宅介護支援(ケアマネジャー)が入ります。
4 つの在宅サービスが一緒になることで、連携がよりスムーズになります。



イメージ図

2012年夏、
むつ市金谷と十二林のふたつの地区に
医療、福祉、文化を融合した「新しい街」が誕生!!



ホームページアドレス
<http://www.michinokuso.jp>

やさしい街づくりを応援しています。

おそうじ本舗
[住し]もご愛します。
株式会社 東北環境サービス
Tel:0175-22-3927

海・山なくして、下北半島は語れない。
総合食品卸問屋
大市 株式会社
青森県むつ市若生町一丁目 13 番 1 号
TEL 0175-33-8138
FAX 0175-22-0733

快適な環境づくりのお手伝い
○介護用品のレンタル・販売 (車いす・ベッド・リハビリ機器他)
○住宅改修
株式会社 **シルバーサービス**
〒035-0033 むつ市横迎町 2-9-13
TEL 0175-22-9511

イチオシ！

シリーズ⑦ 青森社会福祉振興団 スタッフによる

手作り イベント集団

花見会、夏祭り、敬老会、忘年会。四季の移り変わりとともに各施設で行事が開催されます。その行事に欠かせないのが余興、利用者の笑顔を見たくて、毎回、出し物に工夫を凝らします。

ステージに上がった途端、ときには演歌歌手、ときには役者、ときには手踊り名人。変幻自在なスタッフ達です。

笑顔が生まれるから嬉しい。嬉しいから一生懸命。一生懸命に利用者が拍手を送ってくれる。仕事の中のスタッフが何気なく、何かの所作をしたら、次の出し物を企画している時です。



写真/右
左上 みちのく金谷総合デイサービスセンター『暴れん坊将軍』
左中 特養みちのく荘『夢芝居』
左下 みちのく金谷総合デイサービスセンター『め組のひと いこいの里』『歌舞伎』



私たちが提供しているサービスには、「え？こんなことできるの？」と思うようなことがたくさんあります。「イチオシ！シリーズ」でさまざまなサービスを紹介します。

第6回(第2部)シリーズ② デンマーク医療・福祉研修

法人では、昨年9月と今年5月に2班編成でデンマーク研修を実施しました。今号では第2班(医療・リハビリ研究チーム)の報告、シリーズ第2弾を紹介します。
みちのく荘は、平成24年度に新規事業を立ち上げます。今回の研修は、医療・福祉文化を包括した新規事業をむつ市に構築するためです。

●3日目

特別養護老人ホームみちのく荘/成田 淳子
ルーデスグール市(首都コペンハーゲン)から車で約1時間半にある最新集中リハビリセンター『スコウブリーユネット』を見学しました。この施設は、退院後、集中してリハビリができる環境を必要とする方たちが短期間入居して、在宅生活へ戻るためのトレーニングをする施設です。

1階は外来利用者も通うトレーニングルーム、2階は入居施設になっています。入居期間は平均30日くらいで、脳卒中の場合は2〜3ヶ月入居することもあります。通所リハビリには年間約2千人が通っています。外来でリハビリをしてから仕事に行く方もおり、身支度を整えるためのシャワー室やロッカールームも完備されています。

入居リハビリは、どの動作ができるようになれば自宅へ帰れるかという視点で、療法士などのリハビリスタッフだけでなく、介護職員や栄養士など全ての職種で話し合い、目標を決め行動計画書を作成します。



一見普通の椅子のようですが、数種類のレバーがついていて、背もたれや高さの調節以外に座面の傾きも調整できるようになっています。

薬の管理、1階の食堂までの移動、トイレ動作などといった、入居者の日常生活や自然な行動に合わせてトレーニングが盛り込まれており、リハビリとケアが一体的に行われています。トレーニングと合わせ、病後の体力回復も大きな目的で、よく食べよく寝て、力をつけて在宅へ帰ることができるようケアしています。

施設内の壁には市内の地図が掲示されており、入居者やスタッフはそれを見ながら自分の地域や家の話題に触れ、在宅復帰後の希望や夢を楽しく語り合っていました。また、入居中でも、外の世界と常に触れることができるよう、あらゆる所に大きな



トレーニングキッチンスペース。在宅生活へ戻ることを目的としているため、リハビリ用の特別なつくりではなく、一般家庭と同じようなつくりで設置されています。

ガラス窓が設置されています。

ガラス窓から見える景色は、敷地内の森林や公園が広がっていて、ある入居者は「ここから外の人たちを眺めることで、自分ももう一度社会に出るんだ」という意欲が湧いてくる。」と話していました。

デンマークには寝たきりの人はほとんどおらず、この施設でも入居者自らが日常生活の中にリハビリを見つけ、イキイキと実践していました。

1階のトレーニングルームは、グループで利用できる広いスペースと利用者のさまざまなニーズに応じた小さなスペースに分かれていました。

なかでもトレーニングキッチンスペースは、台所や冷蔵庫などの電化製品・食器などがそのまま再現されており、調理動作だけでなく、配膳や椅子の立ち座りなど、日常生活の動線を想定してリハビリすることができ、適回回かはその自分で自分たちで料理を作り、スタッフや外来利用者とともに食事することもあります。

入居者はこの施設で実践的な日常生活の練習ができるため、安心して自宅に帰り、その後も自立した状態を保つことができているそうです。

施設内の公園にもリハビリ器具が設置されており、いつでもリハビリできる環境が整っています。



第30回みちのく福祉公開講座のお知らせ

東日本大震災により多くの尊い命が奪われ、さらに将来を悲観しての「震災自殺」が後を絶ちません。また、青森県の自殺率は常に全国でも上位にランクされています。多くの社会問題も抱えた今、「命の大切さ」について講演いただきます。

〈演題〉「素敵な出会いのために」
〈講師〉NPO法人あおりのちのちの電話
理事長 石川 敬一氏

〈日時〉平成23年12月8日(木)
午後6時〜7時30分

〈場所〉みちのく中央デイサービスセンター
(問い合わせ)

特別養護老人ホームみちのく荘
0175(23)1600 担当/奥島 藤本

やさしい街づくりを応援しています。

下北文化会館自主事業
12/9【金】
前売 1,000円 (当日1,500円)
小学生以下無料
18:30開場
19:00開演
ピアノ・デュオ 『Piano Piano』
下北文化会館 指定管理者 株式会社 東京堂
〒035-0072 むつ市金谷一丁目10-1
tel 22-8411 fax 22-8414 http://shimobun.com

水産物・青果物・食肉・冷凍食品等の卸売
有限会社
ニッショク
NISSYOKU
青森県むつ市大曲二丁目13-35
電話 (0175) 22-7222
FAX (0175) 22-7081

100%電気自動車

株式会社 むつ日産
むつ市大字田名部字赤川ノ内並木110-4 TEL 0175-22-2284